

ブルーフロンAS活性化材

【初版】

製品概要

「ブルーフロンAS活性化材」は既存露出アスファルト防水の改修用下地調整材です。既存防水の上に塗布することにより、風化しているアスファルト防水表面を活性化し、また露出防水層表面の微細な凹凸も調整することが可能です。「ブルーフロンAS活性化材」施工後に「ブルーフロンNT-FタックシートS」を貼ることで、既存アスファルト防水を撤去せずにウレタン防水材を施工することができます。

製品荷姿

22kg/缶

色相

ブラック

施工要領

- 1 既存アスファルト防水の表面を十分に清掃します。既存防水層に膨れなどがある場合、切開乾燥など行ない大きな不陸がないようにします。
- 2 既存アスファルト防水の表面を十分に乾燥させてください。
- 3 立上がり部の既存アスファルト防水は撤去してください。
- 4 平場の既存アスファルト防水は、立上がり部より150mm程度まで撤去してください。
- 5 アスファルト防水を撤去した立上がり部、平場部はカチオン系の下地調整材にて素地調整を行なってください。



- 6 既存アスファルト防水表面に「ブルーフロンAS活性化材」を金ゴテ、ゴムレーキ、ローラーなどで均一に塗布します。塗布量は1.0~1.5kg/m²前後が目安です（下地状況で加減が必要になります）。
※極端に厚塗りした部分は乾燥が遅れるとともに、含まれる溶剤により「ブルーフロンAS活性化材」自体が膨れる場合があります。
※「ブルーフロンAS活性化材」は溶剤分を含みますので、火気には充分気を付けてください。



- 7 施工間隔は23℃で翌日の施工が目安です。

- 8 「ブルーフロンAS活性化材」の上に、「ブルーフロンNT-FタックシートS」を貼り、ジョイント部、端末部は各種テープにて処理を行なってください。



- 9 立上がり部は、プライマーを塗布し、ウレタン防水材を施工してください。



施工仕様例 (平場部 ブルーフロンエコ仕様)

工程	材料の調合	施工方法	可使時間	使用量	施工間隔
素地調整	<ul style="list-style-type: none"> ●脆弱な旧塗膜は、高圧水洗などで撤去してください。 ●ゴミ、ホコリ、泥などを完全に除去してください。 ●漏水箇所がある場合は、事前に処理を行なってください。 ●欠損部、段差などの凹凸部分は、下地処理材にて平滑にしてください。 ●立上がり部のアスファルト防水は撤去してください。 ●平場部は、立上がり部より150mm程度までアスファルト防水を撤去してください。 ●撤去後、以下の下地調整材で処理を行なってください。 推奨下地処理材……NTカチオンタイトF、NTカチオンフィラー、NT速硬カチオンL、NTミラクルフィラー、NTカチオンエース ●旧防水層の表面がシルバーや水性塗料仕上げの場合は、最寄りの営業所にお問い合わせください。 ●アスファルト防水層の劣化が著しい場合は、最寄りの営業所にお問い合わせください。 ●下地が乾燥していることを確認して次の工程に入ってください。 				
下地処理材	●ブルーフロンAS活性材 ……………22kg	●金ゴテ ●刷毛 ●ゴムベラ ●ローラー ●レーキ	—	1.0~1.5 kg/m ²	12時間以上72時間以内 (23℃)
通気緩衝シート	<ul style="list-style-type: none"> ●ブルーフロンNT-FタックシートSを貼り付ける。 ●ジョイントはNTジョイントテープ イエローにて補強貼りする。 ●端末は端末テープSで固定、もしくは端末プレートを用い、メカニカルアンカーで固定する。 (※プレートで固定後、端末テープSやシーリングなどで処理を行なう) 				直ちに
脱気筒設置	●水上部、および水上の立上がりに沿った場所に50~100㎡に1ヶ所の割合でステンレス脱気筒を設置する。 ※脱気筒設置方法については、カタログをご参照ください。				直ちに
防水層(1回目)	●ブルーフロンエコ 主剤 ……………6kg ● // 硬化剤 ……………12kg	●金ゴテ ●ゴムベラ	40分以内 (23℃)	2.00 kg/m ²	16時間以上72時間以内 (23℃)
防水層(2回目)	●ブルーフロンエコ 主剤 ……………6kg ● // 硬化剤 ……………12kg	●金ゴテ ●ゴムベラ	40分以内 (23℃)	1.90 kg/m ²	16時間以上72時間以内 (23℃)
トップコート	●ブルーフロンGRトップ A液 ……………15kg ● // B液 ……………3kg ●希釈剤ブルーフロンGRトップシンナー…0~3.6kg	●スプレー ●ローラー ●刷毛	4時間以内 (23℃)	0.20 kg/m ²	歩行可能24時間以上 養生期間48時間以上

*防水層およびトップコートは各種選択可能です。ブルーフロンシリーズカタログをご参照ください。

「ブルーフロンシリーズ」取り扱い上の注意事項 (よく読んでご使用ください)

- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合は炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。水は使用しないでください。
- ブルーフロンバリユール、ブルーフロンバリユール NS、ブルーフロンエコ、ブルーフロンエコ目止材、ブルーフロンエコNS、ブルーフロンエコ速乾、ブルーフロンエコMID、ブルーフロンエコ速乾NS、ユータックFエコは主剤・硬化剤(A液、B液)を混合し、容器中にそのまま放置しますと急激に発熱し、危険な状態になることがありますので、仕様書の手順を守ってください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行ない、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 取り扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は、直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 塗料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器はつり上げないでください。止むを得ずつり上げるときには、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください(偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります)。
- 取り扱い後は手洗いおよびうがいを充分に行なってください。
- 目に入った場合は多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合はできるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着し、痛みや外観変化があるときは、医師の診察を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じ医師の診察を受けてください。
- 保管は必ずフタをして、直射日光の当たらない場所に保管してください(水系塗料は凍結を避けてください)。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 詳細な内容が必要な場合は警告ラベル、または安全データシート(SDS)をご参照ください。

■ブルーフロンシリーズの施工上・取り扱い上の注意事項

- ①推奨施工温度は10~30℃です。高温・高湿下、もしくは気温が5℃未満の場合での施工は避けてください。
- ②下地のレイタンス、砂、ほこり、ゴミは完全に除去してください。
- ③ブルーフロン防水層の液相分離が見られる場合は、攪拌機を使用し充分に攪拌してください。
- ④降雨や降雪が予想される場合は、施工を行なわないでください。
- ⑤ブルーフロン各種の開封後は当日中に使用してください。
- ⑥下地に巣穴がある場合はピンホールが発生する場合があります。適切な下地処理を行ってください。
- ⑦冬季は硬化速度が遅くなります。施工間隔は充分に注意してください。

*製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。

【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】

㊦ 日本特殊塗料株式会社

■お問い合わせ先

東京営業所 〒114-8584 東京都北区王子5-16-7	☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323
平塚営業所 〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10	☎(0463)23-2135 FAX(0463)23-3739
名古屋営業所 〒472-0006 愛知県知立市山町東並木北12	☎(0566)81-8111 FAX(0566)81-8124
大阪営業所 〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12	☎(06)6386-8492 FAX(06)6338-3560
広島営業所 〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13	☎(082)423-8231 FAX(082)423-8256
福岡営業所 〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726	☎(0942)89-5766 FAX(0942)89-5762

●日本特殊塗料ホームページ <http://www.nttoryo.co.jp/>

■代理店